

収穫終盤 農作物生育状況

十勝では収穫作業が終盤を迎えています。ビートの収穫は終盤に差し掛かり、長いもなどの根物野菜の掘り取り作業はピークとなりました。

十勝総合振興局の調べによると9月中旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、気圧の谷の影響で雨の降ったところもありました。平年と比較すると、平均気温は高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多い結果となりました。

9月下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、22日から23日にかけては低気圧を含む気圧の谷の影響で、30日は本州方面から北上した前線の影響により一部の地域でまとまった雨が降りました。平年と比較すると、平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間はかなり少ない結果となりました。

10月上旬は、気圧の谷などの影響により雨の降った日が多く、1日から2日にかけては台風第24号や低気圧を含む気圧の谷の影響で、管内の広い範囲で大雨となりました。4日から5日は高気圧に覆われて晴れましたが、7日は台風第25号から変わった低気圧や前線の影響で山沿いや南部を中心にまとまった雨が降りました。平年と比較すると、平均気温は高く、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少ない結果となりました。

10月中旬前半は、高気圧に覆われて晴れる日が多くなりましたが、11日は低気圧や前線の影響で雨となりました。

十勝の農作物の生育状況は収穫期がやや遅れ気味のものが多くようです。小豆は9日遅く収穫期を迎え、飼料用トウモロコシは4日遅れての収穫終となりました。



大豆収穫作業



ビート収穫作業

十勝農協連役員 海外農業視察研修

代表理事組合長 高橋 秀樹

今回、十勝農業協同組合連合会役員の海外農業視察研修が8月29日～9月7日の日程で開催され、ドイツ・オランダを視察して参りました。そこで、今回の視察研修の概要を報告します。

《ドイツ ラプロマ農場・マイナート農場》

ラプロマ農場は、ドイツ南東の内陸部にある旧東ドイツのエアフルト近郊に位置しており、搾乳牛650頭と育成牛950頭を飼養する旧農場と搾乳牛750頭を飼養し搾乳作業のみを行う新農場の2農場を運営しております。

本農場ではデラバル社の最新搾乳ロボット（システム）AMRが導入されており、近年、十勝の大型酪農場経営者も注目している農場となっています。

視察した新農場では、2013年にAMRが設置され、当初は350頭の搾乳牛が750頭まで拡大することができました。搾乳は、24時間3交代制で1日に2回行われています。デラバル社の担当者によると、AMRは、泌乳生理や作業の効率化を考慮し、24ポイントパーラーに設置することとしており、最大で1日あたり延べ1,600頭の搾乳が可能であるとのことでした。

AMRのメリットとして、既存の牛舎を活用できることと、機械故障時において、搾乳効率は低下するが残された正常機械を用いて搾乳できることが紹介されました。更に、ボックス型自動搾乳システムは、メーカー、生産者ともに24時間体制で機械をサポート・監視しなければならず、今後、導入農場や導入台数が増加するほどに、この体制は立ち行かなくなる可能性があることを懸念されていました。

最後に、本農場の作業マネージャーは、AMR導入初期はシステムの不具合も多少あったが、デラバル社の技術サポート、生産性の向上には非常に満足している様子でありました。今後は、マネージャーとしての作業者の管理と作業の標準化や技術の向上が課題であり、十勝の大型農場の若手管理者と同じ課題を抱えていたことが印象に残りました。

一方マイナート農場は、総面積2,300ha程の大規模畑作農業を父親と息子の2人で経営しており、家族以外に9名の職員を雇用しております。

本農場では、ジョンディア社のトラクターが数台導入されており、RKT-GPS搭載トラクターにより農作業の効率化と収量の増大を進めております。播種作業においては、12時間交代の2人体制で24時間行っておりますが、現在までに大きな事故はないとのことでした。

《オランダ アグリポートA7・バーレンス農場》

オランダのアグリポートA7・バーレンス農場はオランダ北部の町、ミデンミーアに位置しており、スマートアグリが実践されているアグリポートA7（巨大園芸施設）にてグリーンハウス栽培を実践している夫婦経営の大規模施設園芸農家です。ガスを使用するコージ

ェネレーションシステムを取り入れ、主にオレンジパプリカの栽培に力をいれています。

ガスによるコージェネレーションシステムの導入により、発電・発熱をし、余剰電力は売電、熱に関しては循環水の温めに利用されています。また、発生する二酸化炭素を利用し収穫量を増やしています。

灌水については、雨水を利用し、不足時には3つの帯水層の水と地下水を利用しています。また、灌水はコンピュータ制御で自動化されており、過去に誤動作はないとの事でした。

このように、エネルギーと水資源の高い効率化を達成し、そのクローズドシステムにより持続可能で高品質な栽培に成功しています。

《オランダ レリー社本社工場》

本工場はオランダのアムステルダム郊外マーススライスにある自動搾乳システムに代表される工場となっております。自動搾乳システムの他、農場向けの自動フェンス設置システムを開発し、畜舎掃除ロボットなども製造しています。

レリー社は創業当初より経営コンセプトの1つが「酪農家の生活を改善する」ことであり、この発想から開発された自動搾乳システム「アストロノート」は今年で25周年を迎え、ユーザーは50カ国にわたり、日本では600台以上が稼働しています。更に、労働力の確保が難しくなる中で、酪農を魅力ある産業とするために、十勝でも導入が進んでいる餌寄せロボットや自動給餌機、フリーストール通路の糞尿をバキュームするロボットが開発され、多くの需要を得ています。

「自動搾乳システムは今後も技術的な開発が進められていくが、今後はデータ管理が重要になり、生産者が生産活動にどのように活用できるかが重要なテーマである。」という説明がありました。そのためレリー社では、サービスチームのスタッフ180名を毎年オランダで研修させ、人材育成を図っており、最近では女性スタッフが増えているとの事でした。また、自動搾乳システムから得られるデータ以外に必要な飼料分析データや乳成分データ、気象データなどは、情報を共有している組織とサテライト契約を締結し収集しているとの事でした。

《オランダ アンチェス酪農場》

アンチェス酪農場は、オランダのフリストに位置しており、本農場はオランダの典型的な家族型酪農場であり、レリー社の自動搾乳システムや自動給餌機を導入しています。

自動搾乳システムなどを導入してからは、これまで8,000kg/305日程度だった個体乳量は10,500kg/305日まで増え、出荷乳量は1,350t/年、乳脂肪率4.2%、乳蛋白質率3.6%という成績でした。乳代は47円/kg程度、配合飼料代は34円程度で、生乳100kg生産に対し配合飼料の給与量は20kg程度と飼料自給率の高さがうかがえました。しかしながら、オランダの牛乳小売価格は成分無調整牛乳が144円/kg、オーガニック牛乳が164円/kgであり、日本同様に乳業メーカーよりもスーパーなどの小売業者が強い状況でありました。

《おわりに》

この度、当JA組合員のご理解を頂き、十勝農協連役員海外農業視察研修に参加させて頂く機会を得ましたことを心より感謝申し上げます。

10日間という長い研修でありましたが、団員の和と助け合いによってその目的が果た

され、無事全員揃って帰帯することができました。

各国訪問では、建築物の保存など歴史と文化の重みを感じることができました。また、各国の農業政策においてそれぞれ制約を受けながら独自の農業経営スタイルを築き常に努力している事、同時に環境を大変重視し、決して派手な生活ではなく、質素堅実な生活を大事にしている点は考えさせられる所でありました。

今回の視察に管内JAから参加された方々と昼夜交流をさせて頂いた事、また各関係機関の皆様にお世話になりました事に深くお礼申し上げ、本研修の報告とさせていただきます。



オランダ・アンチェス酪農場にて



オランダ・アグリポートA7にて

年金友の会 パークゴルフ大会



参加された皆様方

札幌農協年金友の会のパークゴルフ大会が8月24日、依田の俳句村コースで開催されました。

当日は年金受給利用者25人が参加し18ホールをプレーしました。参加した皆様は、「交流を深めながら楽しくプレーする事ができました。来年も参加したいと思います」と笑顔で話してくれました。